

現代日本を代表する庭師による

京都庭園美の世界

京都の名だたる庭師による公開講座を
1年間で計5回にわたり開催します。
それぞれの独自の世界観で表現する庭園の魅力を
存分にご堪能ください。

第二回(平成23年度) 公開講座

第1回

藤井稔 が語る伝統技法の魅力

とき 平成23年 11月12日(土) 午後1時30分~午後3時30分

第2回

小河正行 が語る露地庭の魅力

とき 平成23年 12月17日(土) 午後1時30分~午後3時30分

第3回

寺石隆一 が語る空間構成の魅力

とき 平成24年 2月18日(土) 午後1時30分~午後3時30分

第4回

茨木和幸 が語る創生の魅力

とき 平成24年 3月24日(土) 午後1時30分~午後3時30分

第5回

北山安夫 が語る庭園美の魅力

とき 平成24年 4月7日(土) 午後1時30分~午後3時30分

参加定員 申込み先着120名(平成23年10月30日 締切)
*定員になり次第受付を終了させていただきます

参加費 12,000円(5回通し)

参加申込方法 FAXまたはe-mailにて、お名前・ご住所・お電話をご記入の上下記にお申込下さい。
FAX(075)872-3244 E-mail staff@green.email.ne.jp
*テーマ指定によるご参加は出来ません
*お申込み受理確認と参加費の納付のご案内をさせていただきます

会場

京都市勧業館「みやこめっせ」B1F 大会議室



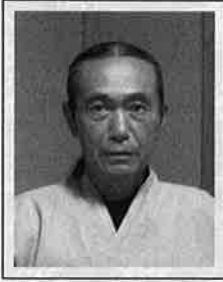
京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1
TEL(075)762-2630

- 京都駅
市バス[5][100]系統「京都会場・美術館前」下車
[208]系統「東山二条」下車
- 四条河原町
市バス[5][32][46]系統「京都会場・美術館前」下車
[31][201][203]系統「東山二条」下車
- 三条京阪
市バス[5]系統「京都会場・美術館前」下車

主催 京都府造園協同組合 京都市右京区梅津堤上町16 TEL(075)872-6286 FAX(075)872-3244

後援 京都府・京都市・京都商工会議所・京都新聞社・KBS京都・(財)京都文化交流コンベンションビューロー・(財)京都市都市緑化協会
(社)日本造園組合連合会・(社)日本造園建設業協会・(財)日本造園修景協会

京都庭園美の世界



第1回 藤井稔

おおよそ、物には「型」というものがあります。有形・無形の区別なく、たとえば歌舞伎や芝居には、表現の仕方にいろいろな基本型があります。その型は、観ている人を魅了し、楽しませるといった目的に基づいて構成されているものです。

庭の表現もまた然り。住宅庭園や茶庭など様々ありますが、目的をしっかりと見据えて「型無し」にならぬよう、また、刻の経過を楽しんで頂ける様にしたいものです。

伝統技法の引き出しを整理して「得意即妙」と云う事です。



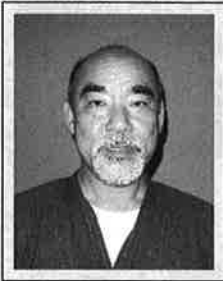
第4回 茨木和幸

庭園は石・樹木などを用い構成された時代の様式美で、鑑賞的な「有」の空間と、白砂を敷き詰め儀式を目的とした「無」の空間があります。

そこではそれぞれに四季や光の強弱、天候などで自在に変化していく美を愛でる事ができます。

「思うこと法を超えず」の言葉通り、日本庭園は、ルールを無視して奔放に作られているわけではあ

りません。先人が苦心の結果打ち出された「法」そのものです。つまり庭園は、ルールを意識し続けるという気の遠くなるような忍耐と努力の中で作られた空間なのです。



第2回 小河正行

露地は茶事のためにある庭と言っていいでしょう。決まり事もあり、それほど目的がはっきりしています。

お茶席は主客が浮き世を離れて出会う場所であり、亭主が道具を使ってもなし、客がその演出に感動して時間を共有できる場です。その演出の一部でもある露地には、客をお席まで案内するという大変重要な役目があります。能で言うなら茶室がシテ、露

地がワキとでも言うのでしょうか。でも、本当はその逆かもしれません。

脇役が徹すべき大切な事があります。それは、お茶室で亭主が演出することを絶対邪魔してはいけないということです。分をわきまえた庭、それが露地です。



第5回 北山安夫

私が常に心がけていることのひとつに、「じっくり味わってもらえる庭をつくる」というものがあります。素晴らしい庭園には、石組ひとつにもメッセージが隠されているもの。しかし、お仕合せな想いだけでは、人を癒すことはできません。

庭園をご覧になる方は、理屈を抜きに、集中してひとつの庭園と向き合ってみてほしいと思います。言葉や文化の違う外国の方々が見て感動できるように、そこに理屈はあ

りません。最初は単に庭を見ていただけののちが、集中しているとそこに吹く風に気づいたりします。自分の見えない心を意識するようにもなります。自分の捉えた美、人と比較しない自分だけの美しさを見つけたことが楽しくなってきたら、それが庭園に癒されているということです。



第3回 寺石隆一

京都の庭の歴史は、そのまま日本の作庭の歴史と言っても過言ではありません。庭の概念はすでに縄文時代からあったということですが、いわゆる作庭の歴史が始まったのは「作庭記」が著された平安中期以後です。時代によって趣や様式を変えながらも、日本庭園の美と技は連綿と今につながっています。

京都は庭を構成する自然、つまり、樹木や石、砂、湧水などに恵まれたまちです。しかしこれからは、それらをさらに活かせるよう「どうしたら魅力的な空間を構成できるだろうか」と積極的に奮闘すべきではないでしょうか。真剣に見直す時が来ているのではないかと思います。

会場周辺の平成23年 秋の寺院特別拝観の御案内



- 金戒光明寺**
10/8(土)～12/4(日)
www.kurodani.jp
- 永観堂**
11/5(土)～12/4(日)
www.eikando.or.jp
- 青蓮院**
10/29(土)～12/4(日)
www.shorenin.com
- 知恩院**
11/5(土)～11/27(日)
www.chion-in.or.jp
- 高台寺**
10/21(金)～12/4(日)
www.kodajji.com

京都府造園協同組合 参加申込み

FAX (075)872-3244 E-mail staff@green.email.ne.jp

お名前		ご連絡先 お電話		性別	
ご住所	〒				
会社名		所属			